

Case Studies

case.09

全国に展開する保育所の運営を円滑に行うためのインフラとして成長
保育の質向上に貢献するポリコムビデオ会議システム

アートチャイルドケア株式会社

the 0123 アートチャイルドケア

厚生労働省から認可された認可保育所をはじめ、東京都からの認定を受けた東京都認証保育所や病院内・企業内保育所など多種多様の保育形態に対応した施設を全国で運営。イベント時に活用できるベビーシッターサービスなども手掛ける。

アートチャイルドケア株式会社

本社：〒574-0024
大阪府大東市泉町 2-14-11
設立：1988年7月
代表：代表取締役社長 村田 省三

<http://www.the0123child.com/>



導入の背景

一度の会議で多大なコストが発生！会議開催の効率化を目指す

「子育て支援を通して社会に貢献する」を企業理念に、多様化する保育ニーズに合致した様々なサービスを提供しているアートチャイルドケア株式会社。認可保育所をはじめ、東京都からの認定を受けた東京都認証保育所や病院内・企業内保育所など多種多様の保育形態に対応した施設を全国で運営しており、イベント時に活用できるベビーシッターサービスなども保育サービスの一環として手掛けている。北は北海道から南は九州まで、その数は2013年12月現在で160ヶ所を数えるまでに拡大しており、スケールメリットを生かした運営ノウハウによって保育の質を継続的に高めながら、子どもひとりひとりに向き合う保育を実践している。

そんな同社では、実質的な本社機能を持つ東京本社に全国のマネージャーを集めて「レジェンド会議」と呼んでいる会議を月一回定期的に開催しているが、「旅費交通費だけで1回あたり数十万～百万円規模のコストが発生しており、移動時間も含めた効率化が求められていたのです」と管理部 人事総務課 情報システム担当 課長代理 関口 大介氏は当時の課題を語る。



関口 大介 氏
アートチャイルドケア株式会社
管理部 人事総務課
情報システム担当

導入のポイント

優れたコストパフォーマンスと高品質な映像・音声がポイントに

全国に拠点が分散していることで、本来行うべきミーティングが開催できないという課題も抱えていたと関口氏は振り返る。「読み聞かせなど保育の柱となる取り組みに関しては、常に質を向上させていく必要があります。しかし、その議論に向けたミーティングが開催しにくい状況が続いていたのです」。

そこで同社が検討したのが、音声と映像によって遠隔地同士の円滑なコミュニケーションが可能になるビデオ会議システムだった。「最初は、親会社が導入していたインターネットを介したWeb会議システムを参考にしました」と関口氏。しかし、インターネットを経由することで遅延が懸念されただけでなく、映像品質も満足いくものではなかったという。そこで注目したのが、設置型の専用端末であるポリコムのビデオ会議システムだった。「他社に比べてコストパフォーマンスに優れており、クリアな音質や鮮明なHD映像など品質についても高く評価しました」と関口氏は力説する。

導入前には、ポリコム認定代理店の協力を得て、東京と大阪、そして札幌の事務所にデモ機を持ち込み、実際のマネージャー会議での試用にチャレンジした関口氏。「大勢の声を的確に拾い集めることができるマイク性能や、ホワイトボードに書かれた小さな文字もズーム機能によって鮮明に映し出せるカメラ性能の高さなどが体感でき、参加者からの評判も高かった」。高いコストパフォーマンスと高品質な映像及び音声が大きなポイントとなり、最終的にポリコムが同社のコミュニケーションインフラとして採用されることになる。

尚、事前に行われたデモ機の手配や環境設置サポートなどはプリンストン株式会社が実際に行ったが、「かなり無理を言って、実際の環境と同じ3つの拠点で同時に使わせてもらうことができました。実環境で利用できたことが製品導入の大きな後押しとなりました」とその対応力を高く評価している。

システム構成と導入効果

Challenge

月1回開催しているマネージャー会議に各地域からマネージャーが東京本社に集結する為、多大な旅費交通費が発生しており、移動時間も含めて会議運営の効率化を図りたい。また、保育の質を高めるためのミーティングが開催しやすい環境を整備したい。

Solution

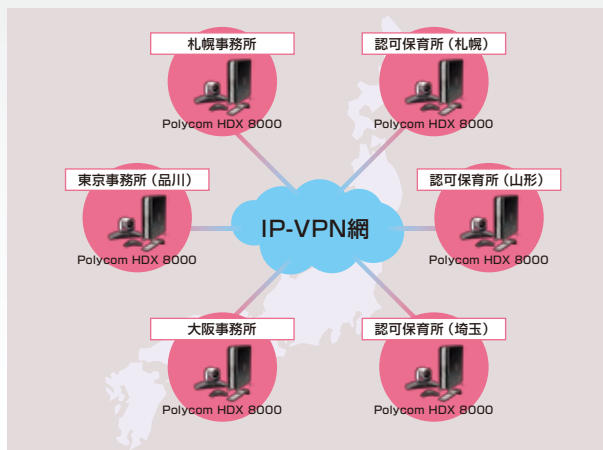
Polycom HDX 8000ビデオ会議システムを導入し、IP-VPN網を經由して3つの事務所と3つの認可保育所を繋ぐコミュニケーションインフラを構築。

Result

遠隔地同士を繋ぐコミュニケーション基盤として積極的に活用されており、営業会議や給食会議、現地業者との保育所設計打ち合わせなど、様々な用途に広がっている。旅費交通費の削減に貢献し、わずか半年の間に投資の回収に成功。

用途

- ・ マネージャー会議
- ・ 拠点開拓のための営業会議
- ・ 調理に関する情報を共有する給食会議
- ・ 現地業者と東京の保育所設計部門の打ち合わせ
- ・ 社内研修



実際の運用状況

わずか半年で投資の回収が完了！活用用途がさらに広がる

現在は、Polycom HDX 8000ビデオ会議システムが札幌と東京、大阪の事務所に1台ずつ、札幌及び山形、埼玉の認可保育所に1台ずつ、計6台が導入されており、IP-VPN網を經由してプロジェクター越しに映像が映し出されている。以前は総勢40名程の全国のメンバーが集まる会議は月1回程度しか開催できなかったが、今では様々なミーティングが週に複数回開催できるようになるなど、遠隔地同士を繋ぐコミュニケーション基盤として積極的に活用されている。「自家調理を行っている認可保育所同士を接続して行われる栄養バランスのとれたメニューやアレルギー対策などについて話し合う給食会議や、事務所のマネージャーが認可保育所の保育状況をビデオ越しに確認し、さまざまな保育の「気づき」を得て全体的な保育の向上に役立てるなど、新たな用途にも活用されています」と関口氏。また、拠点開拓のための営業会議をはじめ、認可保育所を新設する際に必要になる東京の設計部門と現地業者との打ち合わせ時にもビデオ会議システムが活用されており、保育施設をスムーズにオープンさせるための機動力の向上にも効果を発揮。社内で導入する新たなITシステムの使い方をレクチャーする際にも用いられているという。

実際の会議では、体操の時間に流す映像をはじめ、保育に関連した事故のニュースを流して危機意識を共有するなど動画による情報共有も行われており、「ビデオ会議システムを介して遠隔地と動画コンテンツを共有できたときは、理解度も高まりとてもインパクトがありました」と関口氏は振り返る。使い勝手については「導入前は使い方がとても難しそうだという先入観がありましたが、実際は電話を掛けることとさほど変わりません。何かあればアラートも表示されるため、障害の切り分けもしやすくなっています」と高く評価する。

当初課題だったコスト削減に大きく貢献しただけでなく、「わずか半年でビデオ会議システムへの投資が回収できたほど」とその効果に驚きを隠せない。また、直接会う機会が減る代わりに、定期的な会議を重ねることで交流が以前よりも深まっていると関口氏は満足げた。

今後の展望

拠点への導入を加速させ、さらなる会議運営の効率化にも繋がりたい

今後について関口氏は「認可保育所にビデオ会議システムをできる限り導入し、地域性のあるイベントの様態を他の地域の保育所に見せて保育所運営の参考にしてもらったり、職員同士の情報共有に活用したりするなど、保育の質向上に繋がる様々なことに活用していきたい。また、台風が来た時などの緊急時に関係各所を接続して対処方法を検討するなど、新しい使い方でも試してみたい」と語る。

また、現在は4拠点を同時に接続するだけにとどまっているが、今後は多地点接続サーバーの導入も具体的に検討し、多くの拠点を同時に接続したいという。これにより、現在は役員も参加する園長会議を地域ごとに日程をずらして開催しているが、ビデオ会議システムをさらに拡張していくことで一気に開催できるようにするなど、会議運営の効率化にも繋げていきたい考えた。

導入時期：2013年8月 / 取材時期：2013年10月